

# 随筆



## 3歳の娘

ましどり整形外科  
真志取 浩貴

私には3歳の1人娘がいます。生まれた時から私に似ているようで、マッシー（以前私が勤務していた病院で出産し、私はマッシーと呼ばれていました。）そっくりと先生方、看護師さんからも言われ続けていました。私はいわゆる“うちな一顔”で、できれば妻に似てほしいという気持ちはありました。しかし年が経つにつれどんどん私に似てくるではありませんか。いつ妻の遺伝子が爆発するかと期待していましたが、まだ妻の面影がやっとでてきたかな？位あります。1年前にのったタクシーに久しぶりに娘と乗車したところ、おじさんが「あれ、2人目？」と聞かれたので、1人ですよ、と答えたら、「え！女の子だったの」と思わぬ返事が返ってきました。勿論、怒ることもなく、その場は笑いで包まれた雰囲気でした。そのことを妻に言ったら（告げ口の如く）、笑っていましたが、父親に似るのが女の子が一番よねー、と私には理解しがたい返答が返ってきました。まだ3歳だからな・・・と思うと将来が楽しみです。

そろそろ何かクラブに入れようかと考える時期になってきました。文系よりはむしろ体育系に参加させたい私です。昔から子供ができれば食事には気をつけようと考えていました。スポーツをすることで体力、技術は努力次第で身に

つける事は可能ですが、体型はやはり遺伝的要素が大きく、さらに食事は体の発育に強く影響することが解っています。ですから、蛋白質多めの食事を心がけています。1日1食は納豆、豆腐を食べてもらうようにしており、炭水化物も大きく偏らないよう、魚もメニューに多く取り入れています。スポーツの基本は体からと今から取り組んでいます。スポーツは向き、不向きありますが、4歳になったらテニスをさせようと考えています。あるきっかけで42歳である私がテニス始めるようになりました。テニスをやっていくなかで色々な方に出会いました。そのことがとても新鮮で、またテニス自体の魅力にもふれ、今では頭の中の半分はテニスです。娘にテニスを勧め、そして応援するためには私自身がテニスを理解しないとイケません。ですから今は娘のためにと妻に言いながらも、テニスに出かけるのが私の楽しみであり日課でもあります。

3歳という時期は、周囲からは大変な時期とよく言われます。いわゆる反抗期です。自我の目覚めで自分の気に入らないことはとことん反抗するのです。まさに今その時期です。パパ大好きと言ったものの1分もしないうちに、パパあっち行ってよ、大嫌い、など私の心にぐさぐさ突き刺さる言葉を連発します。言われれば言われるほど顔をすりすりしたり、ぎゅーっと抱きしめたりするのですがさらに嫌われます。でもこれが父親としてのスキンシップだと思い、嫌がられながらも続けています。まだまだ子育ては始まったばかりですが、私も妻に協力して子育てを手伝っていこうと思います。今回は“4歳になった娘”でまた投稿いたします。